

平成19年7月26日
環境局環境経済部環境産業政策室
主幹：柴田俊雄
主査：杉野元治
TEL：582-2630

北九州PCB廃棄物処理施設グローブボックス内での火花の発生について

7月25日20時55分頃、日本環境安全事業(株)の北九州事業所（北九州市若松区響町）において、グローブボックス内でコンデンサ素子解体中に火花が発生したとの報告がありましたので、お知らせいたします。

なお、今回事象による人的被害および施設内部・外部へのPCB漏洩は全くありません。

（別添：日本環境安全事業(株) ホームページ発表資料

<http://www.jesconet.co.jp/facility/kitakyushu/pdf/gbtrouble.pdf>）

平成19年7月26日

日本環境安全事業株式会社 北九州事業所

所長 千葉 高生(TEL 093-752-1113)

安全対策室長 入江 敦史(同上)

日本環境安全事業株式会社 本社

事業部長 齊藤 眞 (TEL 03-5765-1907)

事業部審議役 田中 紀彦(TEL 03-5765-0543)

北九州PCB廃棄物処理施設グローブボックス内での火花の発生について

7月25日20時55分頃、コンデンサの解体作業を行うグローブボックス内で、コンデンサ素子の切断中に切断面からの火花の発生を確認しました。このため直ちに機械を停止するとともに、素子には紙類も使用されていることを勘案し、念のためグローブの一部を切断し消火器を数秒間使用して火災発生を予防しました。また、速やかに北九州市の消防部局及び環境部局に連絡し、現場の確認を受けています。この事象による人的及び設備的被害はありません。また、排気中PCB濃度のモニタリング値に異常はなく、PCBの施設外への漏洩也没有ありません。

なお、グローブボックス内の気圧は外部より低くボックス内の空気が外に出ないように管理されております。今回グローブを切断した際には外部との差圧が通常時の120パスカルから80パスカルまで縮小したものの、引き続き負圧が保たれたためボックス内の空気のボックス外への流出はありません。

火花の発生原因は、カッター刃の摩耗の進行により素子切断の際に強い抵抗があったこと等が考えられます。今後カッター刃の交換頻度を上げる等により再発を防止いたします。

再発防止措置後、安全を確認のうえグローブボックスでの作業を再開する予定です。

以上